

## 子ども・若者の豊かな成長と地域社会 ～体験・居場所・支援のこれから～

青山 鉄兵（文教大学）

### はじめに

#### ◇簡単な自己紹介（キーワード）

- ・専門分野：社会教育 / 青少年教育 / ユースワーク
- ・主な活動：国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター客員研究員 (スグキク:802-409)  
東京YMCA評議員 / 東京YMCA長期キャンプ「野尻学荘」副荘長  
こども家庭審議会こどもの居場所部会委員  
中央教育審議会生涯学習分科会社会教育の在り方に関する特別部会委員



### 地域における子ども・若者を取り巻く環境

#### ◇家庭・学校・地域の変容

家庭では… 家庭の負担増と教育格差、放課後支援ニーズの高まり

学校では… 学校教育の肥大化、さまざまな教育問題

地域では… 地域コミュニティの弱体化、地縁的な子ども・若者組織の弱体化

- ・学校・家庭を中心とした生活（による弊害も）
- ・（学校・家庭以外の）地域における人間形成機能の縮小
- ・商品化/教育化される余暇

→結果として・・・

- さまざまな体験の機会の減少
- 「サンマ」の減少と遊びの変化
- 居場所になりうる場の減少（団体、公園、空き地、駄菓子屋、、、）
- 多様な人間関係（ナナメの関係）の減少
- 自由に試行錯誤できる余地（すき間）の減少
- 社会や地域に関わる機会の減少

→その他にも・・・

- 放課後支援ニーズの拡大 → 「小1の壁」への対応
- 子どもの貧困と教育格差
- 子ども・若者の権利保障への関心の高まり
- 思春期以降の「生きづらさ」

⇒家庭・学校・地域の連携・協働の必要性（CS & 地域学校協働活動 の推進）

⇒地域の教育力の再生に向けた地域づくり（&大人の学びも）

## 地域における「居場所」や「体験」の重要性

- ◇地域における体験の機会や居場所の減少
- ◇地域や社会における意図的な「体験」や「居場所」の提供と矛盾

### 例えば、「居場所づくり」の場合

- ・「居場所」のこれまで
  - 1980年代～ 不登校への社会的関心の高まりと「居場所」への注目
  - 1990年代～ 子ども・若者全体の課題としての「居場所」への注目
  - 2000年代～ 政策としての「居場所づくり」の推進
- ・空気としての居場所
- ・主観としての居場所
- ・大人による「居場所づくり」という矛盾

### 例えば、体験活動の場合

- ・体験不足という指摘（1990年代以降の体験活動の推進）
- ・体験と体験活動の違い
- ・自然にできること→わざわざさせること、への変化
- ・わざわざさせることになった結果…
  - ①格差の拡大（体験の商品化、経済格差/地域格差/体験の世代間連鎖）
  - ②教育性の強調（手段としての体験、さまざまな手法の開発、成果の重視）

## 子ども・若者の「支援」をめぐる状況

- ◇思春期以降の「生きづらさ」とどう関わるか
  - ・「大人のなり方」の変容
    - 子どもから大人への移行期支援の欠落
    - 「生きづらさ」やニーズの多様化
    - 同調圧力の高まりと失敗の許されない社会
  - ・子ども・若者の権利 / 社会参画への関心の高まり
    - 子ども・若者の声を聞くこと
    - 運動の主体からプログラムの客体への変化
    - 変わるべきなのは本人か社会か
  - ・子どもの貧困と教育格差
    - 学校外でこそ広がる格差
    - 都市と地方の地域間格差
  - ・ユニバーサルアプローチとターゲットアプローチ
    - 困難を抱える若者＝ターゲットアプローチ、とは限らない
    - 潜在的なニーズへの対応
    - ターゲットニーズを包含するユニバーサルアプローチの重要性

## これからの地域に求められること

- ・地域の中での「居場所」や「体験」の充実
- ・領域横断的な「子ども・若者支援」の推進
- ・思春期以降の子ども・若者への関わり
- ・評価や成果とどう付き合うか
- ・「教育」や「支援」との付き合いかた